

表紙の解説（第3グループ）

北海道の老舗酒蔵【小林酒造株式会社】

壮大な開拓魂が宿る明治の蔵

小林酒造株式会社は、創業明治11年。初代小林米三郎は新潟県出雲崎より渡道し、父「伝四郎」の手によって札幌市にて酒造業を開業しました。明治33（1900）年に現在の夕張郡栗山町に本拠地を移しています。

小林酒造の酒蔵群の特徴は、造り酒屋としては極めて珍しい西洋建築を取り入れたレンガ蔵・札幌軟石を使用した石蔵の美観にございます。一万坪の敷地内に17棟もの蔵が点在し、築100年蔵としては全国でも有数の規模を誇っています。空知地方のレンガ建造物としては最大規模のものであり、一級の歴史的建造物として認定されています。

蔵元「北の錦記念館」は昭和19年に小樽の銀行をモチーフに建築された、小林酒造の旧本社事務所であり、平成8年には、約5000点の酒器・蔵人の生活道具等を中心に構成した展示施設と蔵元限定のお酒を購入できる直売所として生まれ変わりました。

平成26年7月に蔵元の生家 小林家もオープン。

小林家は1897年（明治30年）に建築された小林酒造の歴代社長宅です。2013年（平成25年）までこの家での暮らしがありました。

小林酒造創業からこれまでの間には、華やかな時も苦境に立たされた時もありました。しかし、小林家の女性たちはどんな時も「もったいない」を貫き、質素で忍耐強い生活で家を守り続けてきました。小林家のご案内は、そんな女性たちにスポットをあてながら物語ります。

築120年を超える古民家で甘酒などの喫茶を楽しめ、有料で小林邸の内部を説明付きのご案内しています。（家屋見学は1日4回（11月～3月は3回）、小林家の「守りびと」がご案内いたします。）

さらに敷地内には、昭和元年建設の古民家で手打ちそばが楽しめる『錦水庵』があり、せいろや田舎蕎麦、そばがき等のお料理、小林酒造の日本酒を楽しめます。



表紙の解説（第3グループ）

北海道の老舗酒蔵【小林酒造株式会社】



①中庭

夕張炭鉱に向けて出荷していた時代を彷彿させる、石炭燃料の多管式蒸気機関が残る中庭。

創業当時の北海道は極寒の地で、発酵が止まるほど。

保温効果の高いとされた瓦技術を使い、レンガで蔵を立てた。



②仕込風景

酒造りではものすごい量の米を使う。蒸された米の粗熱を取りながらかたまりをほぐし、各工程に振り分けられていく。

小林酒造では道産の原料にこだわり、全量を道産米で醸す。



③小林家

創業者である初代小林米三郎が建てた家屋。築120年を超える建物は、明治の面影を残す。

現在は、「小林家」として一般開放しており、「守りびと」たちの案内や酒屋の甘酒が楽しめる。



④記念館

旧事務所として使われていた建物は、銀行の設計図を使って建てられた。この建物をふくむ、全13棟が国の登録有形文化財に指定されている。建物の中は、資料館・直売所として使用されており、様々な観光客を受け入れている。